

## 2025年 京都経済4団体 新春年賀交歓会ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

本日は、京都経済4団体の新春年賀交歓会にご出席いただき、誠にありがとうございます。4団体を代表し、新年のご挨拶を申し上げます。

まずは、西脇知事、松井市長をはじめ、本日ご臨席の国会議員の皆様、そして地域の発展にご尽力いただいております企業・団体の皆様におかれましては、平素より多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび昨年1月より療養中の塚本・前会頭に代わり、前会頭の任期である今年10月まで、京都商工会議所の会頭職を務めさせていただくこととなりました。塚本さんには特別顧問に就任いただき、大所高所から引き続きご意見をいただきたいと考えております。塚本さんの思いを引継ぎ、京都経済の発展に向け、精一杯努めてまいりたいと思います。皆様方のご支援とご協力をよろしく願いいたします。そして、塚本さんの1日も早いご回復を心よりお祈り申し上げます。

さて、新たな年を迎えるにあたり経済情勢を見渡しますと、半導体産業の国内投資やインバウンドの急増など、日本が再評価されていると感じます。京都でも海外で競争力を持つ企業や観光業を中心に明るい兆候が見受けられますが、多くの企業・団体においては、金利上昇やエネルギー価格高騰、人手確保のための賃上げなど、新たな負担が懸念される状況です。また、国内マーケットに依存する中小企業を中心に、物価上昇による消費低迷や働き手不足の影響を受けるなど、懸念点も多く見受けられます。

京都商工会議所では、こうした直面する様々な困難を乗り越えるため、デジタル化や新事業展開への支援など、各社の変革に向けた活動に対し、柔軟な支援策を拡充し、提案して参りたいと考えております。

京都は現代の学校教育発祥の地でもあり、「知恵産業のまち」として独自の地位を築いてきました。多くの大学や研究機関が集積する京都ならではの強みを活かし、地域経済のさらなる発展を目指すことが私たちの使命です。

そのためには、京都で学んだ学生が京都企業で働き、世界に向けて活躍できる場を広げることが必要不可欠です。しかしながら、京都で学んだ学生を京都の企業が十分に採用しきれていない現状もあります。学生が自ら活躍する場として魅力ある京都になるためには、産業界とアカデミアがしっかりと連携し、ライフサイエンスや環境技術、デジタルイノベーションといった成長分野へ積極的な投資を行い、新たなビジネスの創出に取り組む必要があります。

さまざまな環境の変化を伴う時代だからこそ、京都企業のオンリーワン・ほんまもんの技術力や産業界の底力が、改めて世界から評価されると信じております。「Made in Japan」というよりも「Made in Kyoto」と言った方が、世界から評価され、正規の値段で買ってもらえる時代です。ここにお集まりの皆さまには、京都の魅力さをさらに高めるチャレンジを今後も継続していただき、京都のさらなる発展にご尽力くださいますよう、お願いいたします。

まもなく本年 4 月には「大阪・関西万博」が開幕します。関西館では、文化・食・産業・観光など一週間ごとに展示を変えながら、京都の魅力を発信して参ります。同時に開催する「けいはんな万博」も含め、京都の伝統文化や先端技術を活かした展示やプロジェクトを通じて、国内外にその魅力を発信し、多くの人々に京都ブランドの価値を感じていただきたいと思ひます。ぜひ、ここにお集まりの皆さまも、積極的に足をお運びいただければと存じます。

結びに、本年が皆さまにとって健康で実り多い一年となりますこと、そして京都がこれからも日本、さらには世界で輝き続ける都市であることを心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和 7 年 1 月 6 日

京 都 商 工 会 議 所  
会 頭 堀 場 厚